

With

秋
2007
vol.42

ウィズセンター情報誌

- 女性のチャレンジ講座
惣万 佳代子さん (NPO法人 テイサービスこのゆびとーまれ理事長)
- ストップDV講座
落合 恵子さん (作家)
- 女性のための健康セミナー (第2回～第4回)
金重 恵美子さん (産婦人科医)
本多 公子さん (臨床心理士)
山口 衛里さん (天満屋女子陸上競技部コーチ)
- インフォメーション
- ウィズカレッジ 津山さん・さん塾
中野 満知子さん (NPO法人 アサーティブジャパン事務局長)
- ウィズフェスティバル2007
- 参画社会へ Let's Go !
NPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」(備前市)



かわしまたえ こ
「家族へ」 河嶋妙子さん (岡山市)

平成17年度 絵てがみコンテスト ウィズ賞受賞作品

看護師としての20年の経験を活かし、仲間と共に高齢者だけでなく、子どもや障害者と一緒にケアできるデイケアハウス「このゆびとーまれ」を開所された惣万佳代子さんから、「富山型」デイケアへのチャレンジの日々をユーモアを交えながら、元気一杯に語っていただきました。

講演 「笑顔の大家族 このゆびとーまれ」 ～「富山型」デイサービスへのチャレンジ～

講師 惣万 佳代子さん (NPO法人 デイサービスこのゆびとーまれ理事長)



プロフィール

富山県黒部市生まれ。1973年富山赤十字病院に勤務し、1993年同病院を退職。その後、富山県内初の民営デイケアハウス「このゆびとーまれ」を開所。平成16年度女性のチャレンジ大賞、2005年男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞。主な著書に「笑顔の大家族このゆびとーまれ『富山型』デイサービスの日々」がある。

はじめたきっかけ

「このゆびとーまれ」は、平成5年7月に産声をあげました。富山赤十字病院に勤務していた看護師3人で立ち上げた民営のデイケアハウスです。「このゆびとーまれ」をはじめたきっかけは1人のおばあちゃんの声でした。そのおばあちゃんは「惣万さん、自分の家ながにどうして家に帰れんがけ。畳の上で死にたいって言うてるがに、どうして畳の上で死なれんがけ。これが私の運命け。なんまいだ、なんまいだ」って手を合わせられて老人病院に行かれたんですよ。その一言で私たち看護師3人が立ち上がりました。私たちが昼間おばあちゃんを預かることができたら、その家のお嫁さんは働くことが出来、おばあちゃんも家で死ぬことが出来るんじゃないかと思って、私たち看護師3人が退職金を出し合っただけで始めました。

だれもが、地域で、ともに暮らす

日本の福祉施設では、お年寄りだけで1つの施設に50人、100人、200人が住んでいます。知的障害者の施設では、380人（富山）、500人（新潟）、800人（京都）の施設があります。私は、同じような人たちだけで1つのコロニー（村）を作っちゃいけないと14年間言い続けています。どうしてかといいますと、お互いに相乗効果が無いからです。不自然ですよ。すれ違



▲子どもも高齢者もいきいきと



▲ハッピーバースデー!!

う人、すれ違う人、お年寄りばかり、あるいは障害者ばかりではおかしいですよ。岡山市は女だけの市にする、何やら市は男だけの市、何やら市は障害者だけの市にするって言ったらかわいいでしょ。岡山市には赤ちゃんからお年寄りまでいるから、お年寄りも輝くし、障害者の方も、子どもも輝くわけですよ。

「このゆびとーまれ」には年間2000人以上の方が県外から見学に来られます。「惣万さんは最先端のことをしたね」、「画期的なことをしたね」ってよく言われますが、私たちのやってきたことは画期的でも最先端でもないんですよ。あたりまえで普通の生活をしているだけです。私はそれを日本の文化であると言い切っております。私たちが小さい頃あった光景ですよ。

2つの言葉に支えられて

私は14年間、働いて働いて働いてきました。皆さんも一緒だと思います。今の私には2つの言葉が支えとなっています。1つは「明日の100人を救うより今日の1人を救え」という赤十字の理念です。「このゆびとーまれ」の使命は目の前に困ってる1人のお年寄り、1人の障害者を支えることだと思ってます。私たちNPOは制度があって活動するんじゃないんです。町にニーズがあって活動し、後から制度がついてくる。これがNPOの役割だと思っています。では、明日の100人は誰が救うのか。これは行政だと思います。NPOには100人を救う力なんてとてもないですよ。これは行政にお任せすればいいと思っています。

もう1つ好きな言葉に元アメリカ大統領ケネディの言葉があります。「国が君たちのために何をしてくれるかではなく、君たちが国のために何ができるか考えて欲しい」。私もそう思います。私が富山市のため、富山県のため、そして日本のために何ができるかと思ったら、毎日小さなことの積み重ねしかできません。今の私に出来ることは「このゆびとーまれ」に来てくださっているお年寄りの方、そして障害者の方たちに毎日安全で楽しく過ごしてもらおう。それしか出来ません。日本中の国民1人1人が自分が何ができるか考え、そしてそれを行動に移していった場合、この国もきっと住みやすい国になると私は信じています。

人権をはじめとする社会問題に精力的に取り組まれている作家の落合恵子さんに、女性や子どもなど弱い立場の人への暴力を家庭や地域社会からなくすためにはどうすれば良いのか、熱く語っていただきました。☒



講演 ☒ 「あなたがあなたを よりていねいに 生きるために」

講師 ☒ おち あい けい こ
落合 恵子さん (作家) ☒

人 権

「人権とは誰の足も踏まないこと。同時に誰にも自分の足を踏ませないこと」。この場合の足とは、具体的な足を意味するのではなく、かけがえのないその人という存在そのものです。自分という存在を誰にも踏ませません。同時に相手の自分も私は踏みません。それが人権の基本であると思っています。そして言うまでもなく、ドメスティックバイオレンスは人権侵害です。

言葉の発見

ある人権侵害が存在した時、けれども、それについて呼び名がない時、私達はその人権侵害を社会の表面に問いかけることは出来ません。セクシャルハラスメントがそうでした。長い間、働いてる女性達が時にはトイレで、あるいは仕事が終わった後喫茶店の片隅で、なんでこんな屈辱的な思いをするのかと思いつつ、セクシャルハラスメントという言葉が無かったために、それを表にあらわすことは出来ませんでした。私が好きなオーストラリアの女性運動の活動家にスザンヌ・ランガーさんがいます。その彼女が次のような言葉を言っています。「新しい発見とは、往々にしてそこにありながら、光が当たらなかったものに光を当てることである」。そこにあって、光が当たらなかったら影になってしまいます。光が当たらなかったら、あることすら皆気が付きません。同じようにドメスティックバイオレンス、セクシャルハラスメント、あるいは虐待もそうなんですね。そこにありながら名前を獲得しなかった時は、誰もそれを知ること出来なかった。傷を受けた彼女だけがその傷の痛みを抱えて、そして死んでいくしかなかった。言葉の発見はとても大切です。

歴史的背景

「男らしさとは強いことです」、「男らしさとは守ることです」、「男らしさとは攻撃性に優れていることです」、「男らしさとは金を稼ぐことです」、「男らしさとは家族を守っていくことです」。これら全部が男性という性に添えられる属性であり、一方女性とは「女らしさとは優しいことです」、「女らしさとは控えめなことです」、「女らしさとは受け身のことです」、「女らしさとは……」。一方は攻撃をする側です。もう一方は優しく受け止める側です。攻撃する側の性が暴力を振るったとしても、もう一方の性は、「自分の人権を侵害されたから立ち上がって闘いましょう」とは教えられないままずっと時代と社会が流れてきたのです。一方は攻撃性を良しとし、一方は受け身性であると決められていたならば、暴力を振るうことは「男らしさ」の証明です。そしてそれを受け

入れることが、控えめでおとなしく受け身の女性の仕事です。とされてきた歴史があります。人権侵害としてなかなか成立しなかったその理由の後ろには、こんな背景が隠されているという言い方が出来るでしょう。

ドメスティックバイオレンスの被害者

ドメスティックバイオレンスには身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力(社会的隔離)などがあります。分け方は様々です。身体的暴力だけが単独で存在するとは思えません。身体的暴力が存在したら、精神的暴力も重なっているわけです。殴られたら心も傷つくでしょう。重なってその被害者を襲うものだというとも考えましょう。

毎日のようにこれらの暴力が繰り返されると、被害を受けている側は、最後は「自分は無力なんだ」という感覚に陥ります。最初は闘おうと思ったかもしれませんが、なんとかしてこの暗い穴から出て行こうと思ったかもしれませんが、でも、毎日毎日これが繰り返されていたら「ああ私はダメなんだ」とその人は自分を否定するしかないでしょう。また、この子を父親のいない子にしているのか、多くの母であり妻である人は悩むでしょう。しかし、一方で私達の社会はドメスティックバイオレンスという言葉が発見され、その概念が広がっても、20年間逃げる事ができなかった女性に出会った時、「どうして離婚しなかったの」、「なぜ逃げられなかったの」と問いかけてしまうケースがあります。彼女はそこに辿り着くまでに、もう逃げるための翼はもがれていたんだと、そこから見ていかないと被害者の辛さは分かりません。

SOSの発信

私達はドメスティックバイオレンスをなくしましょうといっても、どこから手をつけていいか分かりません。でも、始めの一歩としてはSOSを発しなければいけないし、発せられたときは受け止めてあげなければなりません。

①NO(拒否)と言おう。でも、拒否できないケースが多い。だったら、②GO(行く・逃げる)、そして最後は③TELL(誰かに語る、相談する)。これは性暴力や虐待から子供を守るためにその気持ちを自分に身にかけてまいりとして、童謡や絵本で子供に語りかけた言葉ですが、ドメスティックバイオレンスでも同じことが言えます。NO、GO、TELL、そしてもう一つ大事なことは、シェルターに入った人達がどうやって自立をしていくか、そのこともしっかり見つめていかなければなりません。

(文責：岡山県男女共同参画推進センター)



●第2回 / 7月7日(土) ☒
講演 ☒ **「元気ですか？ あなたのカラダ」**

講師 ☒ ^{かねしげ えみこ}**金重 恵美子**さん (岡山中央病院副院長 / 産婦人科医) ☒

第2回では、更年期に気をつけたい病気や更年期を乗り切るための食生活・生活習慣についてお話していただきました。

45歳を過ぎると、月経はあっても女性ホルモンの量は減ってきます。女性ホルモンの不足によって起こる症状は〈更年期障害、うつ、不眠、物忘れ、しみ・しわ、尿失禁、肥満、高脂血症、心血管系疾患、骨粗鬆症〉などがあります。これらの症状は、食習慣・運動習慣・生活リズム等で予防ができます。食生活のポイントは塩分・糖分・脂肪分を控えて、カルシウムや体の酸化を防ぐ抗酸化物質(ビタミンC・ビタミンE・ポリフェノール・リコピン)、食物繊維を積極的に取り、食べ過ぎない事が大切です。スト

レッチ体操やウォーキングなどの運動習慣を身につけ、体を動かす事によって体脂肪を落とし、筋肉をつけて病気を予防できます。また、女性ホルモン補充療法も有効です。ホルモン補充療法は、更年期障害の治療だけではなく、認知症や骨粗鬆症などの予防にも効果があります。また、この時期は糖尿病、乳がん、子宮がん、卵巣がんにも注意が必要です。

「正しい知識」を持ち、調子が悪いことに早く気付いてセルフケアを行い、体調がひどく悪くなる前に検査治療を受けることが大切です。明るく元気な女性が増えることは、社会にとってとても役立つ事です。無理はしない程度に自分で努力して、元気をつくるように心がけましょう。

●第3回 / 8月11日(土) ☒
講演 ☒ **「カラダの気持ちを聞いてみよう！」**

講師 ☒ ^{ほんだ きみこ}**本多 公子**さん (アウラ・メンタルリラクゼーション代表 / 臨床心理士) ☒
講師 ☒ ^{かねしげ えみこ}**金重 恵美子**さん (岡山中央病院副院長 / 産婦人科医) ☒



第3回では、はじめに、本多さんから「ストレスとの上手なつきあい方」について、体験を通して楽しく教わりました。

- ストレス源(ストレッサー)は個々人で違う。違いを受け入れられることが大事。
- ストレッサーを意識して違う角度から見ると、客観的に捉えることができる。
- 相手の「非言語的コミュニケーションの癖」(肘を突く・視線をそらすなど)に気づくことで、ストレスを軽減できる場合もある。

次に「こころの健康のためのストレス予防」のトレーニングとして〈目を閉じて全身の力を抜き、ゆっくり吸って

長く吐く)「呼吸法」を教わり、リラクゼーションを体験しました。

最後に、金重さんから「更年期だからと家に閉じこもってしまうとますます気持ちが暗くなっていきます。辛かったら、我慢しないで病院に行き、体調が良い時にはお化粧・おしゃれ・好きな音楽・美容院に行くなどで気分転換し、常に自分をいたわるようにしてほしい。気分が落ち込んでいるときには、外に出て自然の中から良いエネルギーをもらい、心の元気を習慣としてつくっていきましょう」と更年期をポジティブに乗り越えるための心の持ち方のヒントについてお話していただきました。



●第4回 / 9月1日(土) ☒
講演 ☒ **「いつでもどこでもエクササイズ」**

講師 ☒ ^{やまぐち えり}**山口 衛里**さん (天満屋女子陸上競技部コーチ) ☒
講師 ☒ ^{かねしげ えみこ}**金重 恵美子**さん (岡山中央病院副院長 / 産婦人科医) ☒

運動がテーマの第4回では、講師にシドニーオリンピック女子マラソン7位入賞の山口衛里さんを迎え、簡単なエクササイズを行いました。

子どもの頃からスポーツに親しむ環境に育った山口さんは中学まではバレーボール、高校時代から陸上競技を始めました。減量のために満腹感の得られる低カロリー食事を続けた結果、貧血に。今までの競技生活を振り返りながら、運動するためには食事もしっかり摂ることが必要、食べながら運動してやせることが一番健康的であること、ま

た、身体を動かすことは脳の活性化にもつながると、運動の効用を話されました。金重さんからは生涯健康であるために ①禁煙、②週2.5時間の運動、③1日最低5種類の野菜・果物を摂ること、④肥満防止などを勧められました。

最後に「らくらくながら筋トレ」と題し、歯磨きをしながらのスクワットや洗濯物を干しながらのストレッチなど、日常生活の中で気軽に取り組める運動を教わり、参加者一同、その場で腕や脚を伸ばしながら、身体をほぐしました。

2007年8月19日(日)開催 ☒ ウィズカレッジ 津山さん・さん塾 ☒

ワーク ☒ ショップ ☒ 「コミュニケーション講座 ～はじめて学ぶアサーティブネス(入門編)～」

講師 ☒ なかの まちこ 中野 満知子さん
(NPO法人 アサーティブジャパン事務局長) ☒

会場 ☒ 津山男女共同参画センター
「さん・さん」会議室



5月にウィズセンターで開催し、好評をいただいたコミュニケーション講座を会場を移し、県北部の津山市で実施しました。

この日は、年齢や職業も様々な男女約30名がアサーティブネス(自分の気持ちや意見を相手の権利を侵害することなく、率直に・誠実に・対等に表現すること)について、基礎を学び、相手を替えながらロールプレイングを行いました。

参加者からは「相手にわかるように伝える方法があることを知った」、「今までの自分を見つめ直すことができた」、「実践できることがたくさんあり勉強になった」などの感想が聞かれました。

INFORMATION インフォメーション

受講生募集

- おとなの土曜塾 ～人生を粹に・豊かに・はつらつと～ ☒
〔第3回〕 ☒
講演「知っておきたいメタボリック・シンドローム」 ☒
～スリムにヘルスアップしませんか!～ ☒

日 時：平成19年11月3日(土) 13:30～15:30 ☒
講 師：ぬまの たけゆき 沼田 健之さん (岡山県南部健康づくりセンター長) ☒
定 員：90人 (先着順) ☒
申込期限：10月31日(水)まで ☒
その 他：託児あり(無料、要電話予約) ※締切は10月27日(土) ☒

- 女性のチャレンジ支援講座 ☒
講演「夢をもとうよ!」 ☒ ～元気☆勇氣☆本気～ ☒

日 時：平成19年12月1日(土) 13:30～15:30 ☒
講 師：まさゆき 正木 ゆきさん (㈱もっと代表取締役) ☒
定 員：120人 (先着順) ☒
申込期限：11月28日(水)まで ☒
その 他：託児あり(無料、要電話予約) ☒
※締切は11月24日(土) ☒



お申込み・問合せ ☒ ウィズセンター ☒ ☎086-235-3307 ☎086-235-3306 Eメール danjo@pref.okayama.lg.jp

ウィズライブラリー

～ 秋の夜長は…… ～

図書 ☒



『絵本屋の日曜日』 ☒

- ・落合 恵子 著 ☒
- ・岩波書店 (2006年) ☒

子どもの本の専門店「クレヨンハウス」を開いて30年の著者が四季折々の思いをつづっていきながら、紹介する100冊の絵本。それはささくれだったり目づまりを起こしている疲れた大人の心を癒してくれるささやかな「処方箋」です。 ☒

図書 ☒



『オバハン流 旅のつくり方』 ☒

- ・吉永 みち子 著 ☒
- ・中央公論新社 (2007年) ☒

名酒とご馳走を求めて、全国津々浦々、はたまた海外まで。思いついたらすぐ実行、温泉巡りやショッピング。無限大な熟年女性の旅の楽しみ方を読んで体感する極楽旅行エッセイ。 ☒

図書 ☒



『覚えていない』 ☒

- ・佐野 洋子 著 ☒
- ・マガジンハウス (2006年) ☒

著者いわく「恥ずかしいが、50代はつくづく若かったなあと思ひ、そして書いてある出来事を私は全部忘れていた。…」読んでいるうちに人生のさまざまな悩みも何処へやら。嫌なことはすべて忘れる抱腹絶倒のエッセイ集。 ☒

～ 研修会・学習会に～

ビデオ ☒



『ワーク・ライフ・バランス』 ☒

- ・内閣府男女共同参画局 (2007年) ☒
- ・27分 ☒

多様化する生活スタイルや働き方に対する新たな取り組み「ワーク・ライフ・バランス」。充実した暮らしとは何か。仕事と生活の調和を図るための組織や個人の具体的な取り組みを紹介する。 ☒

ウィズフェスティバル 2007

くらしと仕事でかなうよう

11月18日(日)～11月24日(土)



11月18日(日) 12:05～オープニング 傘踊り(藤の会) NTTクレド岡山ビル1階ふれあい広場
 12:35～開会 挨拶・表彰式 NTTクレド岡山ビル17階ウィズセンター会議室

記念講演

先着150人(メ切り11月11日) 手話通訳あり
 託児あり(要予約 メ切り11月11日)



桂 あやめさん

桂あやめのお笑い人生

～タダでは起さぬ、プラスアルファ思考法～

神戸市出身。上方落語協会会員。
 1982年、桂文枝に入門。女に落語は出来ないという固定観念の壁に自作の落語で風穴を開けた。身近な女性を主人公にしたネタを創作し続けている。大阪天王寺で「茶臼山舞台」という寄席スペース主宰。気になる社会的テーマを歌・落語・トークで遊ぶ「あやめジャーナル」などを定期的に開催。

日時：11月22日(木)
 10:00～12:00

ワークショップ 「幸せを育む 素敵な人間関係」

講師：萩尾 寛江さん
 (選択理論心理士)
 より良い人間関係を
 学ぶ心理学

日時：11月22日(木)
 13:00～15:00

シンポジウム 「ひろしまからつなぐもの ～一人ひとり響きあって未来～」

講師：香川 恭子さん
 (日本女性会議2007ひろしま
 実行委員会 副実行委員長)
 おかやま女性国際交流会

日時：11月22日(木)
 15:30～17:00

ワークショップ 「大切ないのち 大切なわたし」

講師：子育て応援隊 kara²
 岡山地域男女共同参画
 活動推進センター

日時：11月22日(木)
 18:00～20:00

講演会 「看護倫理と リスクマネジメント」

講師：石本 博江さん
 (青森中央短期大学教授)
 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会

日時：11月23日(金)
 10:00～12:00

講演会と詩の朗読ワークショップ 「耳を傾けてみませんか ～脳性マヒ青年の前向きな活動と魂の言葉に～」

講師：小山 俊幸さん
 (詩人)
 14期岡山県女性のバス

日時：11月23日(金)
 12:30～14:30

講演会 「ネパール・インドの子ども達を 取材して～未来奪う児童労働～」

講師：石川 隆宣さん
 (毎日新聞大阪本社社会部記者)
 (財)日本ユニセフ協会岡山県支部

日時：11月23日(金)
 15:00～16:30

ビデオシアター 「酔っぱらった馬の時間」

・監督・脚本 バフマン・ゴバディ
 ・2000年 イラン
 ・80分
 ウィズセンター

日時：11月24日(土)
 10:00～12:00

講演会 「自分らしさを活かし合うための、 さんかくコミュニケーション術」

講師：松田 隆之さん
 (NPO法人キャリアセンター
 ビッグバンファクトリー代表理事)
 実行委員会自主企画事業

参加費 無料

会場 岡山男女共同参画推進センター(ウィズセンター) 会議室

※月曜日は休館

申込方法 電話・FAX・はがき又はEメール

①希望行事名②氏名③電話番号を明記

申込先 岡山県男女共同参画推進センター

〒700-0821 岡山市中山下1-8-45 NTTクレド岡山ビル17階

TEL086-235-3307 FAX086-235-3306

Eメール danjo@pref.okayama.lg.jp

主催 ウィズフェスティバル2007実行委員会・岡山県男女共同参画推進センター



●男女共同参画啓発パネル展 11月18日～24日
 NTTクレド岡山ビル1階 エントランスホール

●登録団体パネル展 11月18日～24日
 ウィズセンター
 より良い人間関係を学ぶ心理学 (財)日本ユニセフ協会岡山県支部
 おかやま女性国際交流会 世界女性会議岡山連絡会 岡山県交通安全
 全母の会連合会 外国人相談センター (社)大学婦人協会岡山支部

●喫茶コーナーあり(実費) 11月23日のみ
 イーブくらしきネットワーク

●登録団体交流会 11月24日13:30～15:30

参画社会へ

Let's Go!

子育ての場に父親の姿を!

NPO法人子ども達の環境を考える「ひこうせん」

備前市のNPO法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」は今年5月に古い民家を活用し、地域の大人と子どもが交流を図る施設『くるみの森』を備前市伊部に開設しました。

今回はご夫婦揃って、地域の子育て支援活動に活発に取り組みられている代表理事の赤迫^{あかさこ}康代^{やすよ}さんと理事の赤迫^{あかし}孝志^{たかし}さんにお話を伺いました。

子育て支援のNPOを発足

保育士の経験を持ち、自らも3人の子どもを育ててきた康代さんは、子どもを取り巻く環境に危機感を抱き、同じ悩みを持つお母さん達と集まることから活動を始めました。「子どもを遊ばせたくても遊ばせる場所がない。親も子育てについて悩んでいる。大人と子どもが交流できる場所がほしい」などの現状を何とかしたいという思いから、子ども達の環境を考える「ひこうせん」を立ち上げ、平成16年にはNPO法人化させました。

妻の活動に賛同して

一方、夫の孝志さんは、当初は妻が行う事業活動に子どもを連れて参加する程度で、活動が忙しくなっていく康代さんに対して批判的な時期もあったようです。康代さんは、出来る限りの家事をこなしながら、孝志さんに自分が取り組んでいる活動の大切さを話しますが、なかなか理解してもらえませんでした。そんな時、2003年、九州で開かれた子育てネットワーク研究集会に夫婦揃って参加する機会があり、その会で孝志さんは子育てに悩むお母さんたちの実態を改めて知り、「妻がやっている活動は社会にとって必要な事なんだ」と実感しました。その帰りに孝志さんから「『ひこうせん』の活動は、やっぱり正しい事だったんだね」と言われ、康代さんは認められたと感じ、とても嬉しかったそうです。また、



康代さん

孝志さん

孝志さんも子育てネットワーク研究集会への参加がきっかけで、その後NPO法人の理事に就任し、地域の親子約20組が共同で米作りを行う『田んぼの学校』や父親達で結成した音楽バンド『チチバンド』の活動に力を入れるようになりました。

「たて・よこ・ななめ」の交流を目指して

孝志さんは、この『田んぼの学校』を「米作りについては全くの素人」という状況から始めたのですが、仲間の協力もあって活動を年々活発化させ、田植えや草取りなどの農作業の他にも料理教室やキャンプなども行い、自然の中で家族がふれあう楽しさ、大切さを伝えていきます。活動日以外にも世話役として、草取りなどの雑用に追われ、平日は会社員として働く孝志さんにとって、『田んぼの学校』を継続する事は大変なことですが、仲間にも助けられ今年で5年目を迎えています。今後も仲間を増やして、異年齢の子ども同士のふれあい、また親同士の関係や、子どもと大人の「たて・よこ・ななめ」の交流を目指しています。「子育てに関われるのは数年間なのに子育ての場に父親の姿がない。自分が活動することで、父親が子育てに参加する重要性をアピールしていきたい」と孝志さんは熱く語られました。

康代さんも「『ひこうせん』の活動への参加をきっかけとして、自主的に講座などを企画するグループも生まれ、ますます活動の輪は広がっています。やりたい事、学びたい事があるのに『子どもがいるから……』と諦めてしまうのは、もったいない。『くるみの森』では、大人も子どもも一緒に学んで、一緒に育っていく環境と機会を提供し続けていきたい。そのためにも、協力してくれるスタッフや子育て支援グループ全体のレベルアップも目指したい」と笑顔で語られました。

(取材：ウィズセンター情報コーナー 赤田)



地域で子育て
「くるみの森」



親子で米づくり
「田んぼの学校」



ウィズセンターは **土・日曜日**も開館しています。
お気軽に、お越しください。

会議室の利用について

◇ 会議や研修に最適 ◇

★男女共同参画に関する会議、セミナーなどで使っていただけます。(特定の政治活動または宗教活動及び営業を目的とした場合を除く)

★ご利用手続き

①仮予約

ウィズセンター登録団体は利用日の3か月前の月の初日から、その他の団体等については2か月前の月の初日から予約を受け付けます。(電話可)

②利用許可申請書提出及び利用料支払い

利用日の1週間前までに直接センターへお越しのうえ、申請書記入と利用料の払い込みをしてください。



★会議室使用料

利用時間	9:30~12:00	13:00~17:00	18:00~20:00	9:30~17:00	13:00~20:00	9:30~20:00
全室 (最大160人)	7,900	12,600	6,300	23,600	22,000	33,000
会議室1 (最大50人)	3,500	5,600	2,800	10,500	9,700	14,600
会議室2 (最大80人)	4,400	7,000	3,500	13,100	12,300	18,400

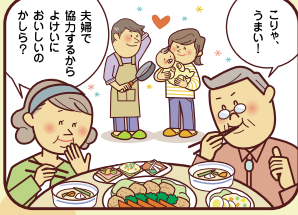
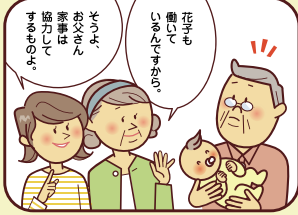
★設備の使用料 (1台1回につき)

液晶プロジェクター	900
ビデオデッキ	300
書画カメラ	400
オーバーヘッドプロジェクター	300

※ウィズセンター登録団体は半額減免になります。

男女が共に輝くおやかまづくり

食事の支度は女性の仕事?



食事の支度は、女性がするものと決めつけていませんか? 家事はお互い協力して行うようにしたいですね。

ウィズセンターの紹介

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本当に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

情報提供

- 図書・ビデオの貸出
- 人材情報・各種団体の活動情報の提供
- 男女共同参画に関する資料の閲覧

各種講座

- 男女共同参画に関する各種講座の開催

相談

- 女性の相談員による生き方・家族や夫婦などの悩みの相談
- 弁護士・医師による相談

就業支援

- 就業相談
- 就業に役立つ講座の実施
- 就業に関する情報の提供

交流

- 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広報

- 情報誌の発行 (年4回)
- メールマガジンの配信 (毎月)

DV防止法に基づく「配偶者暴力相談支援センター」としてDV被害者からの相談や情報提供を行っています。

ウィズセンター利用のご案内

開館時間 火～土曜日/9:30～20:00
日・祝日/9:30～17:00

休館日 月曜日及び年末年始

相談員による 一般相談 火～土曜日(祝日を除く)/9:30～17:00
就業相談 (受付は16:30まで)

特別相談 (予約制) 弁護士による法律相談/原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談/原則第1・3金曜日
医師によるからだの相談/原則第1土曜日

電話 086-235-3307 (代表)
086-235-3310 (一般・特別相談)
086-235-3309 (就業相談)

ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/>



交通案内 岡山駅から徒歩10分
バス/NTT岡山前下車すぐ
天満屋バスターミナルから徒歩2分
市内電車/清輝橋行き 郵便局前下車すぐ

センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ秋号 (vol.42) 2007年10月発行

編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター (ウィズセンター)
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45

NTTクレド岡山ビル17階

TEL (086) 235-3307(代) FAX (086) 235-3306

Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp